

造形演習 レポート1 取り組みのヒント

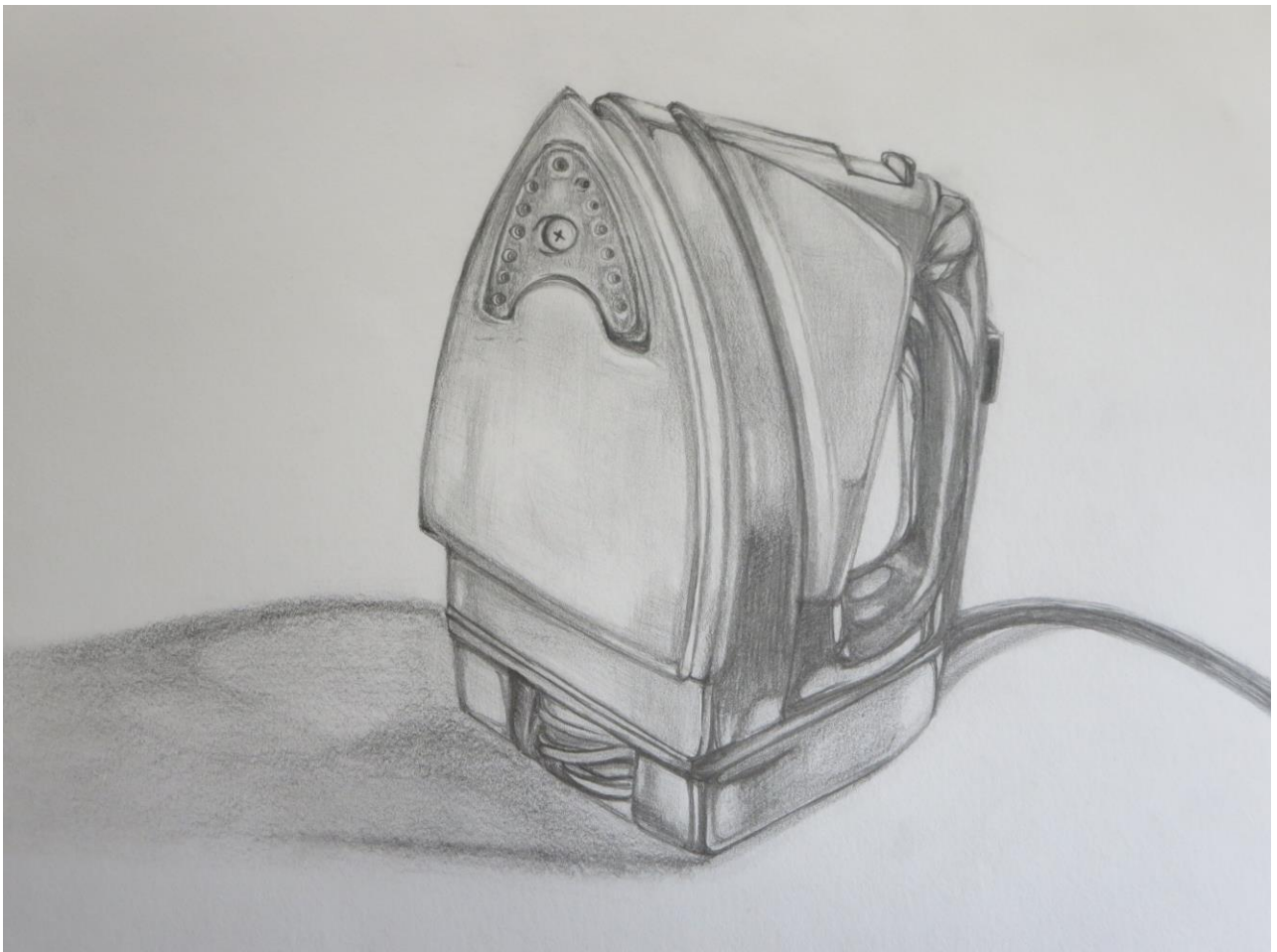
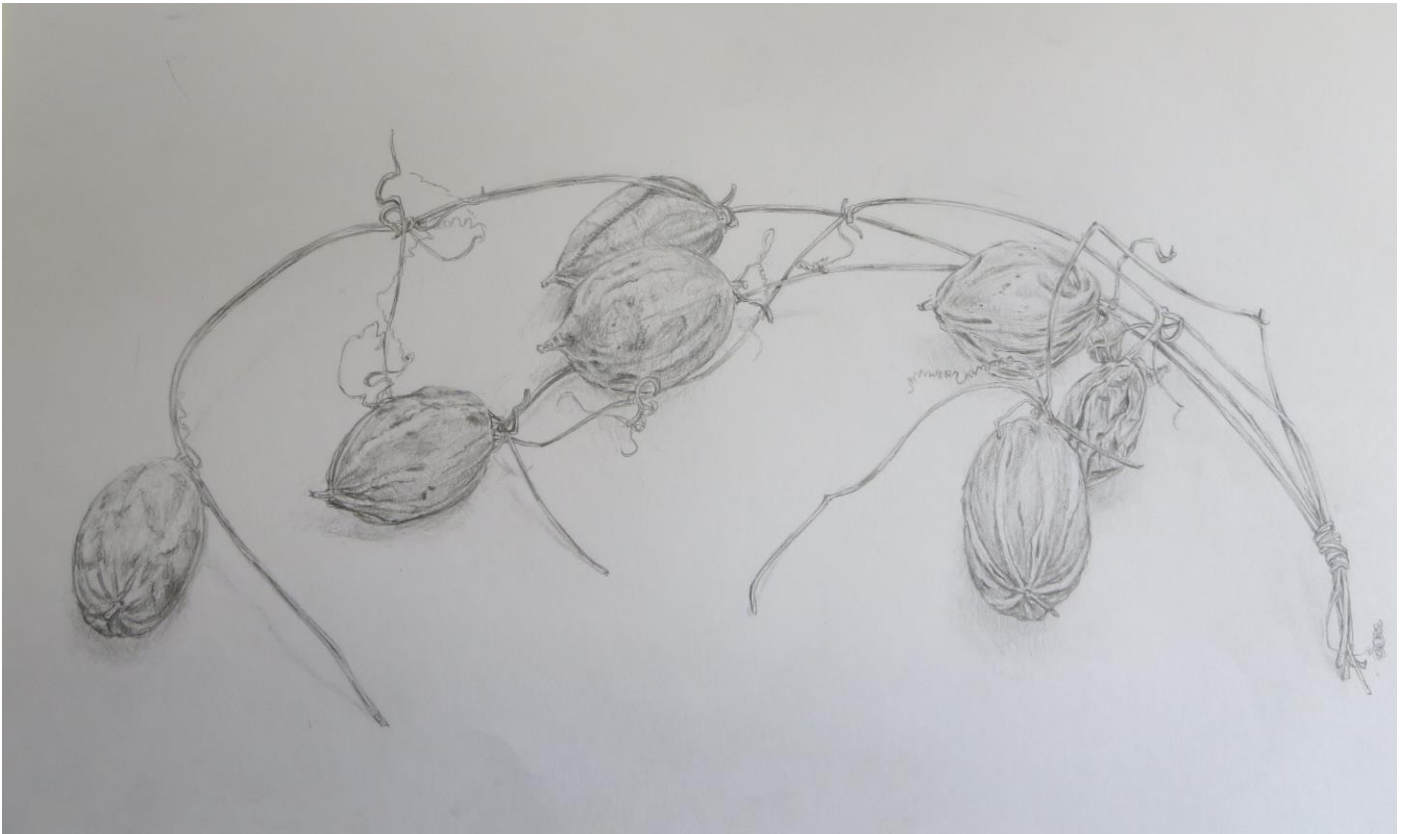
- ◎ レポート1は、「静物デッサン」ということで、鉛筆の濃淡だけで身の回りにあるものを、細かくていねいに描く課題です。(教科書 新版 P.36~37)
- 実際に日常的に使っているもの、毎日 目にしているものの中から、自分が長い時間観察して、描き続けられるものを選んでください。スクーリングに出席して取り組む方は、必ず自分の描きたいもの(モチーフ)を持ってきてください。(注：美術室にモチーフの用意はありません)
- ※ただし、持ってくる間や描いている間に形が変わってしまうものは避けましょう。

参考として、生徒の方々のデッサンをのせておきます。

また、描くときのポイントを参考作品の後にのせていますので、そちらも見てくださいね。







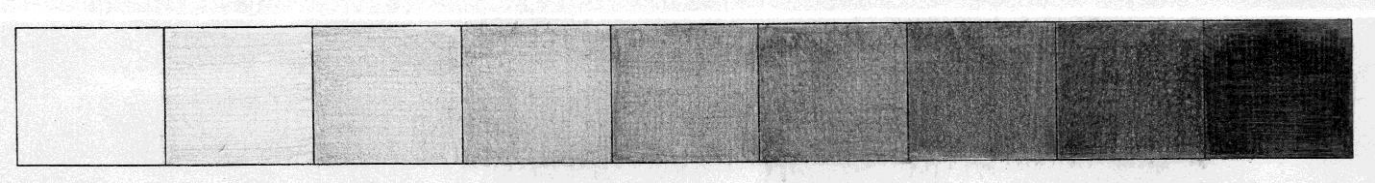
◎ 描くときのポイントは、大きくは2つくらいです。

陰影（明るい暗い）をとらえて描くことと、そのものの材質感を表現することです。

陰影（明るい暗い）をとらえるためには、美術Iでも学習していますが、

描くものにどの方向から光が当たっているかを観察し、

下の図にあるように鉛筆の筆圧や濃さを変えて明暗の変化を描き分ける必要があります。



ものの材質感を表現するには、その材質に合わせた描き方を工夫する必要があります。

例えば下のように、

描いたところを指や布でこすったり、

鉛筆を寝かせてすりこむように描いたり、

一度描いたところを消しゴムで消して白く表現したり（つまり白く描くということ）、

斜めに往復して描いたり、描いている途中で筆圧を変えたり

鉛筆を立てて線を重ねるように表現したり、

点々で描いたり（点々の大きさ濃さも変えたり）、

くるくると円を重ねるように描いたり・・・

さらに、ひとつの方法ではなく、いくつかの方法を重ねてみたりもできますね。

また、鉛筆に加える力を加減することで線の強弱がうまれたりもします。

決まった描き方はありませんので、自分なりにいろいろな方法を試してみてくださいね。

